



特集

アートと社会貢献を連動させた新事業

art bridge — もともと身近にインクルーシブアート —

トップインタビュー 企業と文化

宮部義幸氏 (ハナソニックホールディングス株式会社 取締役・副社長執行役員)

「大阪・関西万博」機運醸成事業

学校アートプログラム (文化芸術による次世代育成事業)

仲間と共に音楽を創り出す喜び

前田妃奈さん (ヴァイオリニスト)

Osaka Directory (大阪中之島美術館プロジェクト)

助成事業紹介

日本万国博覧会記念基金

アーツサポート関西

アートと社会貢献を連動させた新事業

art bridge®

もっと身近にインクルーシブアート



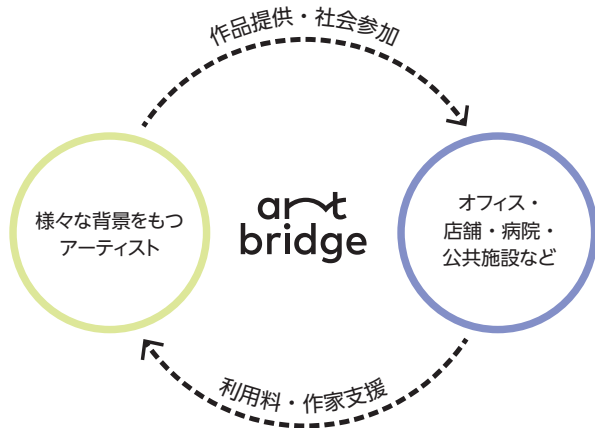
関西・大阪21世紀協会は、障がいのある方を中心とする多様な背景を持つアーティストの文化芸術活動の促進と、アートによる関西・大阪の活性化に向けて、2023年12月、サラヤ株式会社（大阪市）の協力のもとにインクルーシブな社会を目指すアート作品の貸出事業『art bridge（アートブリッジ）— もっと身近にインクルーシブアート—』をスタートしました。

※インクルーシブ(inclusive) …「包み込む」を意味する言葉で、インクルーシブアートは、障がいの有無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、誰でも参加できる芸術活動のこと。インクルーシブ社会（共生社会）は、すべての人がお互いの違いを認め合い、人権と尊厳を大事にして生きていける社会を指す。

事業の目的と概要

本事業は、障がいのある方を中心とする作家の、力のあるアート作品を貸し出し、作家や作品と利用者が繰り返し出会う機会を継続的に作り、身近で鑑賞してもらうことにより、その多様な感性に触れ、理解を深めてもらうことを目的としています。

貸出作品は、単に障がい者のアート作品としてではなく、その障がいが「個性」「強み」「唯一無二」などのポジティブな要素として、現代アート作品に昇華されているものを厳選しています。また、貸し出しの際の利用料の25%を作者に還元することで、障がいのある方の創作活動や自立支援などにつなげていきます。この事業を通してSDGs（持続可能な開発目標）やインクルーシブな社会の実現をも目指しています。



貸出作品

■ 高精細印刷による複製画（レプリカ）

作品の魅力を伝えるクオリティを重視しており、文化財の複製にも用いられるGiclee Printing*などを使用しています。

※Giclee Printing（ジクレー印刷）……高性能インクジェットプリンタを用いて、原画をスキャンしたデジタルデータを高精細かつ広色域に再現する現在最先端の印刷技術。

■ 作品サイズ（額サイズ）：625×475mm

A2(594×420mm)より少し大きめのサイズです。

■ 木製額入りでの貸し出し

どんな場面にも合うシンプルな額（日本製）を厳選しています。

■ 作品をご指定いただく「希望指定コース」とアートマネージャーに任せる「おまかせコース」をご用意しています。

貸出先

オフィス、店舗、病院、公共施設などへの、事業者向けの貸出でスタートしています。現時点では、個人宅向けは対象外としています（将来は個人宅向けにも拡大を予定）。

料金プラン

作品の交換回数が選べる「レギュラープラン」と、1か月単位で利用できる「スポットプラン」をご用意しています。

レギュラープラン

66,000円（税込）～/年

ご利用期間は**1年単位**。交換・配送手数料込。

※契約期間満了の2か月前までに、所定の方法で停止手続きまたはプランの変更を行わない限り、次の1年も自動更新とさせていただきます。

■ **レギュラー1プラン** …… **66,000円（税込）/年**
作品交換は、年に**1回**（12か月後）

■ **レギュラー2プラン** …… **74,800円（税込）/年**
作品交換は、年に**2回**（6、12か月後）

■ **レギュラー3プラン** …… **83,600円（税込）/年**
作品交換は、年に**3回**（4、8、12か月後）

※1年のみでの利用の場合は、各プランの12か月後の作品交換はありません。

スポットプラン

8,800円（税込）/月

ご利用期間は**1か月単位**。別途、交換・配送手数料要。

交換・配送手数料：8,800円（税込）/点（1回分の往復送料）
・交換・配送手数料は「北海道・沖縄・その他の離島」を除き、均一料金です。

共生社会の実現に向けて (2023年11月29日・記者発表にて)



崎元利樹理事長

当協会の崎元利樹理事長はプロジェクトの記者発表において、「コロナ禍にあって日々の行動制限を経験したことで、暮らしに安らぎや活力を与えてくれる文化・芸術の大切さを再認識した。また、世界各地で起こる戦争や対立・分断の悲劇を見るにつけ、人種や文化などの違いを越えて互いに多様性を認め合うことの大切さを痛感している。アートブリッジはこうした問題解決に貢献し、共生社会の実現につなげていくもの。是非多くの人のご協力を賜りたい」と呼びかけました。

また、サラヤ株式会社の森樹里氏（広報宣伝統括部）は、「多くの人に多様な背景を持つさまざまなアーティストの芸術作品に触れる機会を持ち、楽しんでいただきたい」という同社の更家悠介社長の挨拶を代読後、「世界の衛生・環境・健康に貢献することを事業理念とする当社は、SDGsにも長年取り組んできた。アートには人を元気づける力があり、多様な背景を持つ方々と何か一緒に取り組みたいという思いがあった」と、アートブリッジへの参画の意義を語りました。



森樹里氏

プロジェクト構成団体

- 事業主体 公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
- リードパートナー サラヤ株式会社（資金協力）
- パートナー 株式会社清華堂（原画の高精細複製で協力）
- 運営会社 office N（オフィス・エヌ／作家や作品の選定、作品貸出、利用料受領、作家への支払いなど）
- 連携 大阪府

大阪府と連携協定を締結

当協会はアートブリッジを進めるにあたり、2023年11月、大阪府との間で連携協定「障がいのある人の文化芸術活動等にかかる連携に関する協定」を締結しました。

大阪府は2015年より府内の障がいのあるアーティストの作品を現代美術のマーケットで紹介する「カペイシャス (capacious) 事業」を展開しています。capaciousは「容量の大きい」「包容力のある」を意味する言葉で、同事業ではアートに対する既成の枠組みを取り払い、作品を純粋に鑑賞することで広がる可能性を追求するとともに、作家や作家が通う施設のスタッフと、美術関係者やアートファンをつなぐことを目的としています。

同事業では、大阪府が実施していた障がいのある方対象の「大阪府現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト（2009～2017年）」の受賞者などの作品を取り扱っており、グランフロント大阪にある家具店「HIDA（ひだ）大阪店」でこれらの作品の一部を常設展示しています。HIDAは飛騨産業株式会社（岐阜県高山市）が展開するオリジナル木工家具のブランドで、同店ではHIDA製品とカペイシャス作品をコーディネートすることにより、アートとクラフトを楽しむライフスタイルを提案しています。

また、カペイシャスとアートブリッジの運営事務局を担っているoffice Nでは、「カペイシャス展覧会」の開催やアートフェア「ART OSAKA」への出展など、大阪を中心に国内外で障がいのある方の作品を紹介しています。なかでもカペイシャス展覧会は、ブックショップとカフェの店内に併設されたギャラリー（Calo Gallery・大阪市）

で定期的に開催されており、画廊に行き慣れていない人でも入りやすいと好評です。

当協会は今後、アートブリッジ（貸出事業）と大阪府が進めるカペイシャス（販売事業）との連携による相乗効果を生かしながら、障がいのある方を中心とする多様な背景を持つアーティストの文化芸術活動の促進とアートによる大阪の活性化に向けて活動してまいります。



©capacious

HIDA大阪店：大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪北館4階
営業日：平日11:00～19:00／土日祝日10:00～19:00（水曜、第3木曜休）
TEL：0120-117-970（フリーダイヤル）、06-6110-5022



カペイシャス展覧会 Calo Gallery：大阪市西区江戸堀1-8-24 若狭ビル5階

ご利用申し込み

公式ウェブサイト「初回会員登録」からお申し込みください。▶ <https://art-bridge.jp>

お問合せ先：art bridge事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町5丁目6-7 中川ビル3B（オフィス・エヌ内）

Email：info@art-bridge.jp TEL：06-6777-8305



貸出作品 (一例)

art bridgeでは「大阪府現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」の受賞者など、現代美術マーケットでの評価も高い11名の作家が参加しています。今後、作家は大阪府内だけでなく関西エリアに広げて順次追加する予定です。



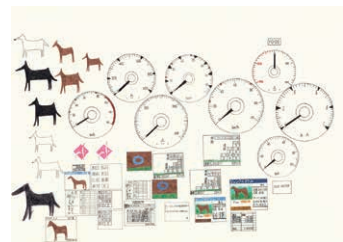
あなせ せいじ
穴瀬 生司 《うみ》2017年
線や抽象的な図形を画面の余白を埋めるように描いた躍動感のある作品。



ありた きょうこ
有田 京子 《てんてんおばけ》2014年
身の回りのものなどを色彩豊かな点描で描いた複雑で温かみのある作品。



いずみ たつや
泉 達也 《キノコ》2019年
動植物図鑑を元に、シンプルな輪郭で対象を捉えたほのぼのとした優しさのある作品。



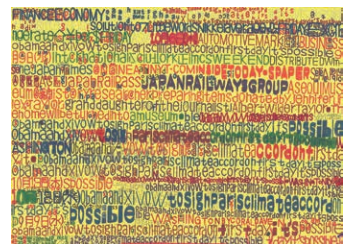
かつら のりゆき
桂 典之 《馬とメーター》2013年
電車のメーターや競走馬など、好きなモチーフを繰り返し描いた作品。



きくち さやか
菊池 沙耶香 《さかな》2015年
色とりどりに着彩されたモチーフが画面一杯に描かれ、今にも溢れ出しそうな作品。



はしもと りょうへい
橋本 良平 《緑と赤と緑の絵》2010年
ツルツルした紙にフェルトペンが滑る感覚が好きで、その行為を作品に昇華。



ひらの よしやす
平野 喜靖 《無題》2016年
新聞から抽出した文字を大胆かつ丁寧に描き出した作品。動物シリーズもある。



やがた さとる
矢形 聡 《カボチャとぶどうといちぢく》2019年
植物や季節の野菜などを、墨を使って一気に描き上げた生命力溢れる作品。
(敬称略)

アートマネージャーの視点 —アートブリッジ運営事務局 office N

office Nは、現代美術のコレクションのコンサルティングや展覧会など、現代美術と個人や企業をつなぐことを業務とし、2013年に設立されました。代表の宮本典子氏(アートマネージャー、日本現代美術振興協会事務局長)



宮本典子氏

は、10年にわたって障がいのある方のアート作品を扱うなかで、「既存概念を超えた思いもよらない表現に魅了され続けている。作家の個性やこだわりがそのまま表現されていて、作家の思いをシンプルに想像することができるから、コンセプトありきの現代美術作品に比べてハードルも低い」といいます。

また、福祉施設でのアートイベントに携わった経験のある田中清佳氏 (office N・アートマネージャー)は、「カペイシャスやアートブリッジ参加作家の作品には、一般の作家が嫉妬するのではないかと思えるほど圧倒的な強さを感じる」と

話す一方で「障がいのある方の中には集中力がすごい人もいて、制作ばかりしていると疲れ切ってしまう。過労を避けるため福祉施設では通所者へのさまざまな配慮をしており、その状況を踏まえた対応が必要」と、福祉の現場でのやり方や課題を見聞きしてきた経験が、アートブリッジの運営にも生かせるといいます。

作家の選定について宮本氏は、「福祉的な観点でいえば、障がいのある方の芸術活動への参加の機会を増やすために、できるだけ多くの作家を紹介すべきだと思うが、アートマネージャーとして納得できる作品でなければ、お客様を説得できない。例えば、この作家なら将来もっと価値が高まるだろうという視点も重要」と強調。こうして障がいのある方の作品が、純粋なアート作品として広く周知されることを目指しています。



田中清佳氏

art bridgeはSDGsの9つの目標に貢献していきます

目標①: 貧困をなくそう

目標⑧: 働きがいも経済成長も

目標⑫: つくる責任 つかう責任

目標③: すべての人に健康と福祉を

目標⑩: 人や国の不平等をなくそう

目標⑯: 平和と公正をすべての人に

目標④: 質の高い教育をみんなに

目標⑪: 住み続けられるまちづくりを

目標⑰: パートナリシップで目標を達成しよう

作家紹介

しば た りゅうへい
柴田 龍平さん



日常の数字をアート作品へと昇華

人の誕生日や好きな音楽の長さ、スーパーのレシートの金額など、日常生活で接する数字に強い関心を持つ柴田龍平さん。そうした数字の一つ一つを模様のように書き込んで独創的なアート作品に昇華させ、「第5回大阪府現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」(2015年度)で最優秀賞を受賞したこともあります。

柴田さんは、2007年から社会福祉法人「ユウの家」(大阪府堺市・就労継続支援B型事業所)でパン製造を手伝うかたわら、同所が開く週1回の絵画クラブの時間に作品制作を行っています。もともと絵を描くことは苦手興味もなかった柴田さんですが、絵画クラブのサポートスタッフから「得意な数字を書いてみたらどう？」と促されて始めたのがきっかけでした。同じ絵画クラブのメンバーたちが細かく丁寧に描いているのを見て、自分もそのように数字をたくさん書くようになったといいます。いろいろな展覧会に行つて絵を見たことも、作品づくりの参考になりました。

制作にとりかかる際には必ず電卓を弾き、独自の計算方法で答え合わせをしてから書き込みます。画材にこだわりはなく、無地の包装箱などにも同様のタッチで制作します。1点仕上げるのに数か月かかり、大きな作品になると1年近くかかることも。そうしてこれまで100作品ほど制作してきました。これからも自身のスタイルを変えずに続け、また今度はいつネクタイを締めて表彰式に出られるかと楽しみにしています。



《1994 ~ 2002》2020年

柴田龍平：1988年大阪府出身。「大阪府現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」で優秀賞(2012年度)、最優秀賞(2015年度)を受賞。

そ ぎ か ず あ き
曾 祇 一 晃 さん



昆虫たちとのわくわくした出会い

恐竜と昆虫が融合した、毒々しくも美しい空想上の生き物を切り絵で描く曾祇一晃さん。1枚の色紙をハサミで切り抜いたシルエットはとても精緻で、全体が一つにつながっています。「トゲトゲの部分を切り落としたり、間違つて切つてしまつたりしないよう注意しています」という曾祇さんは、制作にとりかかるときは頭の中で完成形がはっきり描かれているから下書きもなし。失敗したことは一度もないといいます。トゲトゲの部分は花をイメージしており、作品名も自分で考えてつけます。

切り絵を始めたのは小学5年生のとき。当時から将来はプロの切り絵作家になりたいという夢を持ち、これまでに200点以上制作してきました。切り絵に出会う前は描き絵もしており、2014年からは本格的な作品づくりに取り組んでいます。こちらも恐竜と昆虫がテーマで、カラーボールペンで描く精細なタッチが特徴です。

普段は大阪府羽曳野市の作業所に通いながら、週に1回、アートカンパニー「なないろサーカス団」(奈良県王寺町・就労継続支援B型事業所)で作品制作をしています。同所では、午前中は近くの里山に出かけて農作業や動物などの世話をするのが日課ですが、曾祇さんは昆虫探しに集中。ムカデやハチが好きで、木の枝などで優しく捕獲し、じっくり観察した後は森に放して帰ります。図鑑でも確かめ、皆が驚くほど知識も豊富です。作品には、そんな大好きな昆虫と出会ったときの、わくわくした思いがこもっています。



《木の花蠍鉄砲ロボザウルス》2021年

曾祇一晃：1977年大阪府出身。2023年12月にカベイシヤス主催による自身初の展覧を開催。



物と心が共に豊かな社会を目指し さまざまな社会課題の解決に貢献

「事業を通じて人々の暮らしの向上と社会の発展に貢献する」を経営の基本方針とし、今年3月に創業106年を迎えたパナソニックグループ。とりわけ企業市民活動においては、喫緊課題である地球環境保護や人材育成を重要テーマとし、現在、国内外でさまざまな課題に取り組んでいる。2025年大阪・関西万博での出展も期待される今、そうした活動について当協会の崎元利樹理事長が伺った。

創業命知

崎元 さまざまな分野で事業を展開されている御社では、どのような企業理念を持って経営に当たられているのでしょうか。

宮部 創業者の松下幸之助は、大正7（1918）年に「松下電気器具製作所」を創業後、事業が大きくなるにつれ、当社の使命について深く考えるようになりました。そこで昭和7（1932）年、その考えを

全従業員に知らしめるべく文書にまとめ「告辞」を明示しました。その主旨は、「産業人の使命は水道の水のごとく物資を豊富かつ廉価に生産提供することであり、それによって社会から貧乏を克服し、人々に幸福をもたらすことができる。我が社の使命はそこにある」というものです。当社は、この年を会社の目的と使命を知った真の創業年という意味で「命知元年」や「創業命知」と呼んでいます。つまり当社には2つの創業年があるのです。

創業命知の考えを端的に表しているのが「綱領」です。綱領は当社の進むべき道となるもので、昭和4（1929）年に制定されました。以後、時代に合わせて文言に修正が

加えられてきましたが、その根本精神は変わりません。すなわち「産業人たるの本分に徹し、社会生活の改善と向上を図り、世界文化の進展に寄与せんことを期す」というものです。これは現在も新入社員教育や社員研修などで折に触れて説かれています。



松下幸之助氏の経営観や人生観を紹介する「松下幸之助歴史館」（大阪府門真市）

崎元 御社は2022年4月にホールディングス化され、現在の社名に変更されました。これはどのようなお考えからでしょうか。

宮部 当社には、一人一人が経営者という感覚で仕事を

パナソニックホールディングス株式会社
取締役・副社長執行役員

みやべ よしゆき
宮部 義幸氏

すべきだという「自主責任経営」という企業文化があります。「社内カンパニー」を置いていた時期もありましたし、20世紀には松下電器産業という事業会社兼持株会社の傘下に、松下通信工業、松下電子工業などの上場企業がありました。こうした自主責任経営をさらに徹底していくのがホールディングス化の考えです。

環境問題への取り組み

崎元 近年は地球環境保護の観点でも、企業の社会的責任が重視されています。この課題に対して御社はどのような取り組みをされていますか。

宮部 18世紀の蒸気機関の発明以来、工業の発展と大量生産が地球環境に大きなインパクトを与えてきました。我々はそうした産業に従事する者の責任として、昔から事業活動による地球環境への影響を極小にすべきだという意識があり、独自の環境方針も持っていました。現在は、パナソニックグループ全体の長期環境ビジョンである「Panasonic GREEN IMPACT」に基づいて行動しています。例えば2030年までにグループ全事業会社のCO₂排出量を実質ゼロにしたり、クリーンエネルギー技術の提供を通じて社会全体のCO₂排出量を抑制したりするなど、2050年を目標にカーボンニュートラルな社会の実現に向けて、具体的な数値目標を掲げて取り組んでいるところです。

崎元 御社は車載電池などのエネルギー関連分野にも注力されていますが、それも地球温暖化の解決につながるものですね。

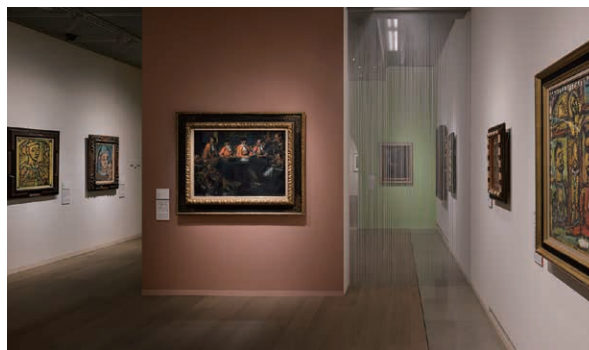
宮部 現在、アメリカでは地球温暖化による気候変動対策として、国をあげてEV(電気自動車)関連産業の発展に力を入れています。我々の事業の柱の1つである蓄電池は、こうしたEVの開発に伴って一層重要な役割を果たすことになります。そのため我々が持っている事業資産をこの領域に重点投資し、アメリカをはじめグローバルな観点でEV市場の発展に向けたビジネスの創出を目指しているところです。先ほど申しましたように、創業者は、社会の発展に貢献することが企業の使命だといっていました。それに照らせば、当社の蓄電池事業は地球温暖化の解決に貢献し、未来に向けて豊かな暮らしをつくる取り組みであり、創業以来の企業理念に則した事業活動なのです。

伝統文化と人材育成支援

崎元 関西・大阪21世紀協会は設立以来「文化立都」を理念に活動しており、松下幸之助さんは当協会の初代会長



聞き手 **崎元 利樹**
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 理事長



パナソニック汐留美術館(東京都港区)
「ジョルジュ・ルオー―かたち、色、ハーモニー―」2023年

というご縁もございます。幸之助さんは「企業は社会の公器」といわれておりましたが、文化振興という観点で、御社はどのような取り組みをされていますか。

宮部 松下幸之助は茶道に造詣が深く、国立京都国際会館や伊勢神宮などに茶室を寄付しました。現在も京都と東京にある当社の迎賓施設にも茶室をつくっており、内外の要人をお茶でもてなし、日本の文化を感じてもらっています。

創業者は人間国宝を中心とした工芸家の支援も行っており、その思いを受け継いで、現在は京都にある当社の迎賓施設「真々庵」の地下に、人間国宝の方々の作品展示スペースを設けています。また、東京には当社グループが所有していたジョルジュ・ルオー(1871~1958年)の絵画作品を中心にスタートしたパナソニック汐留美術館があります。当館では、さまざまな企業美術館とも連携した企画展を開催し、好評を得ています。

崎元 文化の振興に関する人材育成という観点ではどうでしょうか。

宮部 小中高生を対象にした「キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)日本」という映像作品コンテストを毎年開催しています。当社が映像制作用の機材の貸し出しや活動支援を行い、子どもたちが映像制作を通じて創造性やコミュニケーション能力などを高め、チームワークを養うことを目的とした教育支援プログラムです。1989年にアメリカを始め、日本では2003年から行っています。始めた当時は今と違って撮影機材が高額でスマートフォンもありませんでしたから、子どもたちは映像作品を作るところか、



映像作品を作る子どもたち(キッド・ウィットネス・ニュース日本)

撮影機材に触れることすらできませんでした。そこで当社は、自社の製品を貸し出して、映像作品を作ってもらおうと考えたのです。コンテストも行っており優秀作は表彰し、作品はパナソニックグループのホームページで見られるようにしています。



2022年度の入賞作品

崎元 当協会にも、小学4～6年生を対象にアーティストが出前授業を行う「学校アートプログラム」という事業があります。その中に、モバイル端末を使って5分程度の映像作品をつくるプログラムがあり、子どもたちの発想力や創造力を養う大変いい機会になっていると思っています。今のお話をお聞きして、通じるものがあると感じました。

宮部 子どもたちにそうした道具や機会を提供すると、何も教えなくても驚くような表現力を発揮して良い作品を作りますね。KWNは開始以来、累計18万人以上の子どもたちや先生が参加しています。

グローバル企業を集積

崎元 御社は大阪で創業され、大阪の発展とともに世界的企業として成長してこられました。創業当時、大正から昭和にかけての大阪は「大大阪」と呼ばれ、大きな輝きを放っていました。しかし、東京一極集中が著しくなるにつれ、当時のような活力が失われていったように感じます。大阪が再び活力を取り戻すには、どのようなことが必要だとお考えでしょうか。

宮部 東京一極集中の是正は、大阪に限らずどの地域においても喫緊の課題です。文化庁が京都に移転したように、行政や経済など都市機能を根本的に分散していかなければ、いずれ大変なことになるように思います。文化についていえば、芸術大学を出ても大阪では仕事がないといわれるのが大袈裟ではないほどです。

関西の経済界にとっては、グローバルなビジネスをしている企業を関西地域に集積させていくことが必要だと思います。事実、京都にはそうした企業が多くあります。我々も一部の会社機能を東京へ移しましたが、それはほとんど国内ビジネスに関係するものです。アメリカにおける蓄電池事業や、電子部品の会社などは依然、大阪に本社があります。取引先が海外なので、本社機能を東京に置くかどうかは大きな問題ではありません。

しかし、国内ビジネスとなると、さまざまな商談が東京で行われることが多くなりますから、会社機能の一部を東京に移すことは致し方ありません。今後、東京一極集中の是正と大阪の発展のためには、グローバル企業の集積地を目指していくことが重要だと思います。

崎元 大阪は商売のまちといわれますが、文化的なことも含めて「大阪」というブランド力を持たなければならぬと思います。そうしなければ、京都のような世界的知名度や信用、つまり都市格を世界に示すことは難しくなると思います。大阪がグローバル企業の集積地であると同時に、文化力のある都市として認知されるようにしなければなりません。これには相当の時間がかかると思いますが。

宮部 その意味でも、2025年大阪・関西万博は「大阪」「関西」を世界に知らしめる絶好のチャンスですね。

万博は世界の“今”を実感できる場

崎元 2025年大阪・関西万博には具体的にどのようなことを期待されますか。

宮部 インターネットやバーチャルリアリティ（仮想空間による疑似体験）でさまざまな情報を簡単に得ることができる時代にあって、今さら万博はいらないのではないかという意見があります。しかし、我々はコロナ禍で3年半ほど海外との往來の自粛を余儀なくされた中で、

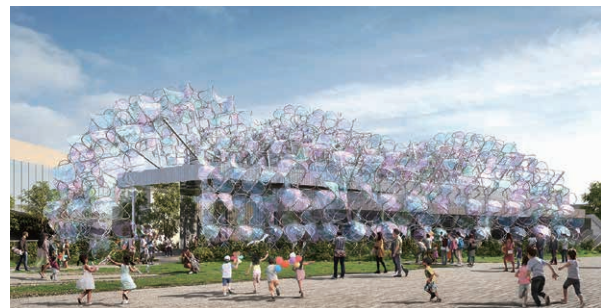
そうした情報だけで世界の実情を本当に理解したといえるでしょうか。私は2023年11月に関西経済同友会の視察でボストンやニューヨークに行き、物の値段や人々の勢い、コロナ禍によって打撃を受けた地域のリアルな現状を肌で感じました。もちろんすべてをリアルに体験する必要はありませんが、これからはリアルとバーチャルの使い分けができないと、時代に取り残されていくように感じます。2025年大阪・関西万博が、世界や日本の「今」をリアルに感じられる場になるよう期待しています。

崎元 御社のパビリオンでは、どのようなものを展覧されますか。

宮部 当社は、たくさんのモノを開発・供給して人々の暮らしを豊かにしてきたという自負がありますが、心の豊かさは物質的充足だけで満たされるわけではありません。そこで我々は、人としてこれからどのようなものを求めていけばいいのかを万博で表現したいと思っています。つまり心の豊かさを訴求するパビリオンです。

崎元 具体的にはどのようなものでしょうか。

宮部 パビリオンの名称は「ノモの国(The Land of NOMO)」です。「モノ」を反対にして「ノモ」と呼んでいるのですが、さまざまなモノはココロの持ちようによってその捉え方が変わる、いわばモノはココロの「写し鏡」だという思いで命名しました。「解き放て。こころとからだと じぶんと せかい。」をコンセプトに、いわゆるα世代(2010年代序盤～2020年代に生まれた世代)の方々に、人と自然の営みの循環の中にある自分の感性に気づき、今の自分を縛っているものから解き放たれて、もっと自由に、オープンに世界や未来を考えるきっかけを提供するパビリオンとしたいと考えています。言葉でいうのは簡単ですが、今、七転八倒してその具体的な展示内容を考えているところです。



パナソニックグループパビリオン「ノモの国」外観イメージ

崎元 心に焦点を当てて人々の暮らしを豊かにするということですね。御社の理念に沿ったパビリオンの展示を楽しみにしています。本日はありがとうございました。

(2023年12月21日/パナソニックホールディングス株式会社にて)

宮部義幸氏

1957年大阪府出身。大阪大学大学院工学研究科卒業、1983年入社。AVCネットワークス社社長(2013年)、専務執行役員、チーフ・テクノロジー・オフィサー(CTO)(2017年)などを経て、2022年より現職。2023年関西経済同友会代表幹事。

パナソニックホールディングス株式会社

本社:大阪府門真市大字門真1006番地。1935年設立(1918年創業)。資本金2,593億円、従業員数233,391人(連結)、グループ会社数524社(親会社および連結子会社)売上高8兆3,789億円(2023年3月31日現在)



(写真提供:パナソニックホールディングス株式会社)

「大阪・関西万博」機運醸成事業

(2023年10月4日～5日)



「ORA外食パビリオン」イメージ図
(提供：(一社)大阪外食産業協会)

70年万博のレガシーを引き継ぐ当協会は、2025年に開催される国際博覧会（大阪・関西万博）において（一社）大阪外食産業協会（ORA）が出展する「ORA外食パビリオン」の運営主体、食博覧会実行委員会に参画します。

日本の食文化の海外発信および同パビリオンへの誘客のため、関西の文化体験イベントを催し大阪・関西万博の機運醸成を図りました。

2023年5月に新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行し、水際対策が終了しました。コロナ禍後のインバウンド（訪日外国人）回復と大阪・関西万博への期待感を高めるべく、日本文化に対する感度が高く旅行消費額の多いEU加盟国の駐日大使や領事などを対象とした体験型モニターツアーを実施しました。14名の参加者には交流を通じて関西・大阪の文化の魅力に対する理解を深め本国で情報発信していただき、EU諸国富裕層の呼び込みにつながることを期待しています。

本事業は、観光庁の補助金「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」を活用して実施しました。



調理服に着替え、お好み焼きのコテ返しにチャレンジした参加者

● 伝統芸能と食文化体験 10月4日

初日は、大阪で最も由緒のある大槻能楽堂（登録有形文化財）において、人間国宝である大槻文藏氏の舞による能楽（ユネスコ無形文化遺産）の鑑賞と、演者の解説による能楽体験ワークショップにより日本の伝統芸能を体感していただきました。



大槻能楽堂での能楽体験。小鼓（こつづみ）を打つ参加者

続いてシェラトン都ホテル大阪内のぶれじでんと千房において、大阪のだし文化・粉もん文化の代表であるお好み焼きの本格的なコース料理を賞味し、江戸時代から食い倒れと呼ばれる大阪食文化に触れていただきました。



お好み焼きの食文化体験

● 万博オリエンテーションと会場俯瞰 10月5日

翌日はグランドプリンスホテル大阪ベイの会議室にて（公社）2025年日本国際博覧会協会機運醸成局長の堺井啓公氏をお招きし、万博の開催概要と最新動向を、続いて食博覧会実行委員会事務局次長の成瀬研治氏よりORA外食パビリオンの出展概要をそれぞれ説明し、万博の魅力に対する理解を深めていただきました。



万博オリエンテーションの様子。講師は堺井機運醸成局長

その後、同ホテル屋上のヘリポートから、大阪湾に浮かぶ人工島・夢洲を見下ろし、万博会場とそのシンボルとなる大屋根（リング）の建設状況などを見学しました。参加者からは万博に関する質問に加え統合型リゾート（IR）の質問も相次ぎ、両施設に対する関心の高さがうかがわれました。



ヘリポートから万博会場を俯瞰

学校アートプログラム (文化芸術による次世代育成事業)

関西・大阪21世紀協会が2021年度より実施している「学校アートプログラム」。本事業は小学校にアーティストを派遣して行う体験授業で、友だちとともに創造する体験が、子どもたちの人間力や思考力などを育むきっかけとなることを期待して実施してきました。

事業開始から3年目となる2023年度は、昨年度に引き続き大阪府泉佐野市、泉南市、阪南市、岬町の合計5校で実施しました。それぞれ実施後には児童アンケート、教員アンケート、教員との振り返りを実施しました。

いずれも「やってよかった」「またやりたい」という声は90%を超え、普段の授業とは違う体験に満足してくれている様子でした。また、「みんなが表現するのを見たり、聞いたりすることが楽しかった」という結果から、自分とは違う表現に対して認め合えたことが読み取れます。「他にもアーティストの作品(演奏など)を見たいですか」の質問に「はい」と答える児童は90%以上となり、文化芸術への興味が高まっていることが伺えます。

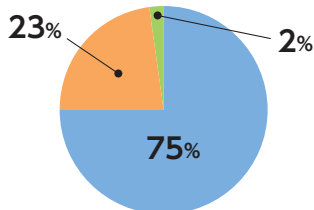
～ 3年間の振り返り～

～プログラム実施実績～

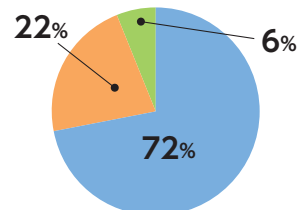
年度	自治体名	学校名	学年	内容	講師
2021年度	泉南市	東小学校	4年生	インドネシアの音楽と影絵体験	ハナジョス
		新家小学校	4年生	映画作り	前田耕平
	阪南市	下荘小学校	6年生	教室に潜む形で使ったステンドグラス模様作り	野原万里絵
		岬町	深日小学校	5年生	水平線から生まれるアニメーション作り
2022年度	泉佐野市	第三小学校	4年生	インドネシアの楽器を使った音楽作り	ハナジョス
		第三小学校	5年生	教室に潜む形で使ったステンドグラス模様作り	野原万里絵
	泉南市	東小学校	5年生	南アフリカの音楽とアート体験	ンゴシ・アフリカ
		新家小学校	5年生	廃材を使った守り神作り	石田真也
	阪南市	朝日小学校	3年生	南アフリカの音楽体験	ンゴシ・アフリカ
	岬町	深日小学校	4年生	南アフリカの音楽体験	ンゴシ・アフリカ
2023年度	泉佐野市	第三小学校	4年生	南アフリカの音楽とアート体験	ンゴシ・アフリカ
	泉南市	東小学校	6年生	描く音、奏でる図形	橋爪皓佐
		新家小学校	6年生	インドネシアの音楽と影絵体験	ハナジョス
	岬町	深日小学校	5年生	廃材を使った守り神作り	石田真也

～アンケートの結果～

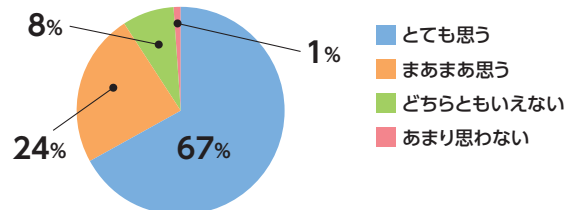
アーティストと一緒に活動できて、普段とは違う体験ができた。



みんなが表現するのを見たり、聞いたりすることが楽しかった。



ほかにも、アーティストの作品(演奏など)を見たいと思いませんか？



～3年連続で体験した子どもたちの感想～

継続的に実施したことで、子どもたちにどのような効果をもたらしたのでしょうか、4年生から連続で受講した泉南市立東小学校、新家小学校の児童に感想などを聞きました。

- ・あまり関われなかった人たちとすごく話せるようになった。
- ・自分はこんなことができるんだとわかった。
- ・いろいろなものに興味を持てた。
- ・好奇心が強くなって、なんだろう？と思ったことをやってみるようになった。



- ・自分やみんなの個性がわかって楽しかった。
- ・他の国の文化に触れてみんなと協力して想像もつかなかったことが作れて楽しかった。
- ・難しいことに挑戦して達成感があった。



～2023年度に実施した新たなプログラム～

● 実施小学校：泉南市立東小学校（6年生）

● 講師：橋爪皓佐（音楽家）

「描く音、奏でる図形」と題して作曲と図形楽譜づくりに挑戦しました。身の周りの音、自然の音など普段は気に留めていなかった音などを聞く体験をしたうえで、学校内で音を採取、音を再現。再現した音で作曲したものを図形化しました。

出来上がった音楽は全校児童に向けて発表しました。



泉南市から感謝状

2021年度から3年間、毎年泉南市の小学校2校で学校アートプログラムを提供したことに對して、山本優真泉南市長（写真右）より当協会へ感謝状と謝意をいただきました。



～ 枠組みを活用した事業～

学校アートプログラムの基本的な枠組みを活用して他の団体にプログラムを提供するなど、取り組みを拡大しています。今年度は新たに、泉南市とフィリピン共和国ダバオ市との姉妹都市協定の締結を契機に展開している国際交流事業のほか、昨年度に引き続き阪南市の海洋教育にもプログラムを提供しました。

▶ 国際交流事業への協力（泉南市）

● 実施小学校：泉南市立東小学校（4年生）
泉南市立新家東小学校（6年生）

● 講師：Mizutama（アーティスト／FIGYA代表）、田口雅英（作曲家）、
ノーマン・ファルカサントス・ナルシソ
（アーティスト／アテネオ・デ・ダバオ大学教授）

身の周りの物を日常的な使用方法から離れて、音の出る道具と見立て観察。自分の周りの魅力的な音を探し、発見した音の特徴を生かしながら即興的に音を組み合わせることで音楽を作りました。さらにはそれを図形楽譜として記譜し演奏しました。

完成した図形楽譜は、フィリピンのアーティスト、ノーマンさんのグループにも独自の解釈で演奏してもらい、自分たちとは違う表現を知ることによって交流を図りました。



泉南市成長戦略室長 伊藤公喜さん コメント

本市と姉妹都市のダバオ市との交流事業にご助力いただきありがとうございます。体験授業に参加した子どもたちの満面の笑みが印象的でした。貴協会の学校アートプログラムのように、楽しくすんなりと異文化にふれる機会が増えると、自然と多文化共生の感覚が芽生えてくるでしょうね。とても素晴らしい取り組みだと思いました。



▶ 海洋教育への協力（阪南市）

● 実施小学校：阪南市立上荘小学校（4年生）

● 講師：川口奈々子（画家）

「わたしの海のもよう」と題して、海の生き物をモチーフとしたバンダナづくりのワークショップを実施しました。

学校の事前授業で実施した「海の生き物を調べ」から、バンダナに描く生き物を選んで下絵を描きました。

普段から身近にある生き物以外にも古代魚や深海魚などにも興味を持ったようです。

完成したバンダナは、地域の音楽発表会の際に首や腕に巻いてお披露目しました。

アーティストの技術や感性に触れながら子どもたちが自由に表現することで、自分たちの身近にある「海」について今まで以上に興味を持ってもらい、また「アート」の視点から海を楽しみました。



仲間と共に音楽を 創り出す喜び

ヴァイオリニスト ^{まえだ ひな} 前田 妃奈さん

ポーランドで開催された若手ヴァイオリン奏者の世界的登竜門「第16回ヘンリク・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール」(2022年10月)で優勝し、国際的に注目を集める前田妃奈さん(東京音楽大学在学)。同コンクールで日本人が優勝するのは実に41年ぶりの快挙で、その後、前田さんは1年間におよぶ優勝者(世界)ツアーをやり遂げた。現地での体験や今の思いなどを伺った。



前田妃奈：2002年大阪府生まれ。東京音楽大学付属高校を経て、現在、同大学音楽学部器楽専攻(ヴァイオリン)特別特待奨学生として在学。これまでに井上敦子、前田悦代、現在、小栗まち絵、原田幸一郎、神尾真由子の各氏に師事。

41年ぶりの快挙

ヘンリク・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールは、ショパンとならぶ19世紀を代表するヴァイオリニストで作曲家のヘンリク・ヴィエニャフスキ(ポーランド)の生誕100年を記念して、1935年にワルシャワで始まった。第二次世界大戦後は開催地を同国ポズナンに移し、以来原則5年ごとに開催されている。優れた若手演奏家の発掘を目的としており、エリザベート王妃国際音楽コンクールやチャイコフスキー国際コンクールなどとともに、世界的権威のあるコンクールといわれている。

第16回は2021年開催の予定であったが、コロナ禍による延期で2022年10月に行われた。世界各国から200名以上がエントリーし、前田さんを含む6名がファイナルステージに進出。前田さんは、ウカシュ・ポロヴィチ指揮、ポズナン・フィルハーモニー管弦楽団との共演で、ヴィエニャフスキのヴァイオリン協奏曲第2番ニ短調作品22とブラームスのヴァイオリン協奏曲ニ長調作品77を演奏し、圧巻の技術と表現力で見事第1位に輝いた。さらに「ヴィエニャフスキ コンチェルト賞」「カプリス賞」「ソナタ賞」「ベートーヴェン、ブラームス作品賞」も受賞した。

同コンクールで日本人が頂点に立つのは、1981年(第8回)以来41年ぶり。この快挙は世界中に発信され、前田さんは2022年10月から翌2023年12月まで、優勝者の副賞である世界ツアーを行った。

一人で臨んだ世界ツアー

世界ツアーはヨーロッパや南米など約20か国60地域におよんだ。新型コロナウイルスの緊急事態宣言下にあった2021年8月、住友生命いずみホール(大阪)で予定していた関西フィルハーモニー管弦楽団との共演が前日に中止され大泣きした前田さん(当時高校生)は、その2年後、たった一人で世界を駆け巡っていたのだった。

「ステージ衣装など自分の背丈ほどの荷物を抱えていますから、飛行機や鉄道での移動が大変。南米では英語が通じないし、そもそも私の英語はカタコトだし…。でも、演奏会の予定が現地の日本人会や大使館で話題になっていて、その方々に案内していただいたおかげで助かりました。パナマではジャングルツアー、エジプトではピラミッドも見物しましたよ」と微笑む。小学生のときから進んで学級委員を務めるなど、持ち前の行動力と物怖じしない性格でやり遂げた世界ツアーだった。

行く先々でメディアの取材も多く受けた。パナマでは国の要人のような扱いを受け、現地の政府関係者やパナマ駐在のポーランド大使らと一緒に記者会見にも臨んだ。そうして広く知られたこともあって、前田さんが登場しただけで「ブラーヴァ！」と声がかかった。共演者たちからも温かい歓迎を受け、「いろんな国のアイデンティティの異なる人たちと一緒に演奏すると、同じ曲でも全然違ってくる。そうしてさまざまなインスピレーションを得るのはとても楽しかった」と目を細める。



ギザにて
(2023年10月上旬/エジプト)



カイロオペラハウスにて
(2023年10月上旬/エジプト)



スロヴェニア・タルティーニハウスにて
(2023年11月中旬/スロヴェニア共和国)
(写真提供：前田妃奈さん)

11歳からソリスト

前田さんがヴァイオリンを始めたのは4歳のとき。テレビの幼児番組で人形が弾いているのを見て「自分もやりたい」と言い出したのがきっかけだった。ヤマハ音楽教室を経て8歳から15歳まで相愛大学附属音楽教室、相愛ジュニアオーケストラに在籍し、11歳になるとソリストとして関西フィルハーモニー管弦楽団や東京交響楽団などとも共演。第67回全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部第1位（2013年）をはじめ、霧島国際音楽祭賞（2016年、2018年）、第18回東京音楽コンクール弦楽部門第1位（2020年）など数々の受賞歴を持つ。

中学3年生のときには、兵庫県立芸術文化センター「佐渡裕&スーパーキッズオーケストラ（SKO）」でコンサートミストレス（コンミス）に抜擢された。SKOは、厳しいオーディションで選ばれた小学生から高校生までの弦楽器オーケストラ。コンミスはいわばそのリーダーで、指揮者の音楽観を理解して楽団メンバーに演奏上の注意点を細かく指示したり、本番に向けてモチベーションを高めたりして練習を牽引する役目を担う。前田さんは「年上の人に指示したりアドバイスしたりしてまとめていくのは大変なプレッシャーだったが、メンバーはみんな優しいのでやっていけた」と振り返る。

さまざまな出会いを糧に

世界ツアーに向けて出発するとき、学友たちから「頑張ってきてね」ではなく、「とにかく生きて帰ってきてくれればそれでいい」といわれたのがとても嬉しかったという。コロナパンデミックが去ったとはいえ、感染の危険性は常にある。人生初の世界ツアーに挑む前田さんにとって、演奏家である前に、生身の人間として気遣ってくれる友人の存在が何よりの励みになった。

「ヴァイオリンをやっていて良かったと思うのは、



(©s.yamamoto)

関西フィルハーモニー管弦楽団 第333回定期演奏会（2022年11月10日／ザ・シンフォニーホール）にて。同楽団音楽監督のオーギュスタン・デュメイ氏が急病のため、急遽代役でソリストを務めた。この演奏で「令和4年度大阪文化祭奨励賞」を受賞。

ヘンリク・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールで1位になったことと、多くの先生方や友だちなど素晴らしい人たちに会えたこと。そんな人たちのように、私と出会って良かった、私といたら笑顔になれる、と思ってもらえるような人になりたい」

前田さんは今、恩師や友だち、共演者たちとの出会いや交流を糧に、仲間と共に切磋琢磨しながら素晴らしい演奏をすることに大きな喜びや魅力を感じている。

(ライター 三上祥弘)



(©Leszek Zadoś)

第16回ヘンリク・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール(2022年10月／ポーランド)での受賞風景

先行きが見通せない今日、アーティストたちの活動は私たちに力を与えてくれます。ASKが支援しているアーティストたちの活動の一部をご紹介します。

ASKが支援した活動のご紹介

クラウドファンディング ▶ クラシック音楽

元ウィーンフィルのコンサートマスターと関西の若手奏者たちが共演する夢のコンサートが実現

新進気鋭のヴァイオリニスト堀江恵太さんが、コロナ禍の中、自分たちで演奏の機会をつくろうと、関西の選りすぐりの若手弦楽器奏者たちに声をかけて2021年に発足した「スーパークラシックアンサンブル」。その第6回公演に向けて、堀江さんの恩師である元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスター、ライナー・キュッヒルさんに共演を呼びかけたところ、「若い演奏家みなさんのためなら」とキュッヒルさんが快諾。関西の20代～30代の若い奏者たちと、ウィーンフィルを45年にわたり牽引したレジェンドとの、まさに「夢の共演」が2023年7月3日、吹田メイシアターで実現しました。前半のメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲はキュッヒルさんがソリストとなり、後半のベートーヴェンの交響曲第7番はキュッヒルさんがコンサートマスターとなるプログラム構成。同じ舞台上立った若手たちが、キュッヒルさんにぐいぐいと引っ張られて圧巻の

演奏を披露し、ホールを埋めつくした満員の聴衆から大喝采を浴びていました。



「第6回スーパークラシックアンサンブル特別公演」演奏風景
場所：吹田メイシアター Photo：野田雅也

八千代電設工業伝統芸能支援寄金助成 ▶ 伝統芸能

志芸の会「夏休みキッズ狂言会2023」が開催されました

大蔵流狂言方・善竹忠重さんが主宰する志芸の会は、阪神間を中心に狂言の振興・普及活動に取り組んでおり、特に子どもたちへの教育普及活動を精力的に行っています。同会は10年以上にわたり、毎年夏に「夏休みキッズ狂言会」を神戸市立灘区民ホールで開催しており、2023年8月、その11回目が行われました。この狂言教室は、5回の稽古と、衣装を身に着けて実際に狂言を演じる発表会からなり、小学1年生から中学2年生までの11名が参加。稽古では、発声や正座のしかた、立ち方などの基本的な所作にはじまり、先生の動きや言葉の抑揚を真似ることを通して、狂言の意味や型を学んでいきます。その成果発表の狂言会では、ホールのステージに能舞台が設えられ、浴衣などをまとった子どもたちが2人1組となって狂言を演じます。わずか数回の稽古で、子ども

たちは狂言の所作や声の抑揚を体で覚え、参加者全員が100名を超える聴衆の前でそれぞれ見事に狂言を演じ切りました。



「第11回夏休みキッズ狂言会2023」子どもたちによる成果発表風景
場所：神戸市立灘区民ホール

クラウドファンディング ▶ 舞台芸術

第3回大阪演劇見本市が開催されました

コロナ禍において真っ先に活動の自粛を迫られた演劇界ですが、演劇の灯を絶やさない、大阪の演劇人たちが集まり、劇団ブースの出展と演劇公演を組み合わせた第1回大阪演劇見本市が大阪市中央公会堂で2021年にスタートしました。2022年に第2回が開催されたのに引き続き、2023年9月15日に第3回大阪演劇見本市がグランフロント大阪にあるナレッジシアターで行われました。会場のステージでは、この日限りの公演として、講談師および浪曲師が弁士となり、その巧みな話芸にあわせて俳優たちが物語を演じる伝統芸能と演劇のコラボレーション劇が上演されました。講談は旭堂小南陵さんによる「徳利の別れ」、浪曲は春野恵子さんの「樽屋おせん」。普段は講談や浪曲の話芸で描かれて

いる場面が、時代劇の衣装を身に着けた俳優たちによって描写され、まるで無声映画の実写版を見ているよう。生の舞台の醍醐味が堪能できた舞台となりました。



「第3回大阪演劇見本市」講談と演劇のコラボレーション公演風景
場所：グランフロント大阪ナレッジシアター

一般公募助成 ▶ 美術

「薫りのささやきと echoes in second nature」展が開催されました

アートユニット Yukawa-Nakayasu として活動する現代美術アーティストの湯川洋康さんは、これまで、歴史や習俗などに秘められた人の営為を再解釈／再文脈化することによって、言葉にできない現象や問題をテーマに作品を制作してきました。2024年1月～2月に、大阪市西成区で展覧会「薫りのささやきと」を開催。ガラス面に有機物の溶液をペインティングし、乾燥とともに起きる結晶化現象によって、表面に淡い濃淡による抽象絵画のような形象が広がる作品を展示しました。これらの作品は自然現象に表現の一部をゆだ

ねて生み出されるもので、作家の作為性と偶然の狭間に生じる美しさが際立ちます。それはまた、私たちの感覚にささやくように働きかける薫りのように、揺れ動く私たちの心とそれを支える身体の関係を示唆するものでもあります。



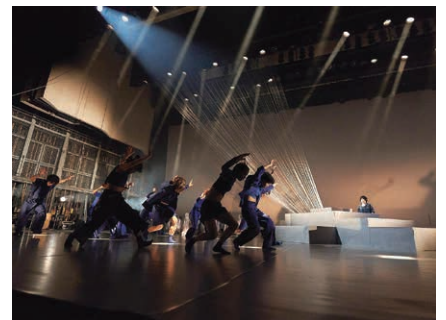
「薫りのささやきと」展より Yukawa-Nakayasu 《remule》(2023)
場所：イチノジュウニノヨン

一般公募助成 ▶ コンテンポラリーダンス

HixTOによる舞台公演「night – 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より」

現在28歳の演出家でダンサーの庄波希さんが2019年に立ち上げたパフォーマンス集団 HixTO (ヒクト)。コンテンポラリーダンスを主体に活動をしながら「身体から社会をデザインする」をコンセプトに掲げ、SONY のカメラロボットとコラボした舞台作品を手がけるなど多方面で注目を集めています。2023年8月、西宮市民会館にて宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」をダンスパフォーマンスによる群像劇として構成した作品「night」を上演しました。演じたのは西宮市民を含むオーディションで選ばれた28名のフレッシュなパフォーマーたち。ジョバンニとカンパネラの友情を幻想的に描いた原作の物語の世界が、若いダンサーたちの躍動感あふれ

る身体の動きによって自由に表現され、開放的な舞台となりました。18歳以下は入場無料とし、夏休み期間中ともあって客席には多くの子どもたちの姿が見られました。



「night – 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』より」公演風景
場所：西宮市民会館 Photo: Minetaka Matsuda

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金助成 ▶ クラシック音楽

ヴァイオリニスト上敷領藍子さんによる「おでかけクラシック vol.4」が行われました

関西の若手クラシック音楽家支援を目的に2023年に設置された「トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金」では、さまざまな場所に出向いて音楽を届けるいわゆる「アウトリーチ活動」への支援を行っています。2024年1月5日に枚方市総合文化芸術センターにおいて、東京藝術大学を首席で卒業し、その後オランダで研鑽を積んだ気鋭のヴァイオリニスト上敷領藍子さんによる「おでかけクラシック vol.4」が、同寄金の助成を受けて開催されました。未就学児から参加できるコンサートで、家族みんなで床に座り、まさに「ピクニック感覚」で良質なクラシック音楽が楽しめる地元で評判となり、毎回チケットは完売。今回はゲストにハープ奏者の山地梨保さんを招き、ヴァイオリンとハープの二重奏による室内楽

を演奏しました。途中「もっと楽器のそばに来てもいいよ」と呼びかけると、子どもたちは目を輝かせてハープの周囲に集まり、普段あまり触れることのない生の楽器の音色に熱心に聞き入っていました。



「おでかけクラシック vol.4」楽器の近くで演奏を聴く子どもたち/場所：枚方市総合文化芸術センター

上町台地現代アート創造支援寄金 ▶ 現代美術

詩人とともに上町台地を巡るアート・ウォークツアーが開催されました

大阪市街地東部に南北に横たわる「上町台地」は、太古より豊かな歴史や文化を育んできました。アーツサポート関西「上町台地現代アート創造支援寄金」では、上町台地をテーマとしたさまざまなアート活動を支援しています。この度、アーティストの國政サトシさんが中心となり、天下茶屋の「聖天さん」として親しまれている正圓寺付近の場所が宿す人々の記憶や歴史、あるいは地形が喚起するものに触れるためのアート・ウォークツアーが2024年1月21日に行われました。ツアーの先導役をこの地と深いつながりを持つ詩人の池田昇太郎さんがつとめ、同行した画家で俳人の小左誠一郎さんとともに、幼少期の記憶をたどりながら、ポツリポツリとイヤホンガイドを通じて自身の記憶や意識の

断片を参加者に語っていきます。それらの言葉は風景に豊かな詩情を与え、その「場所」の体験そのものが芸術となることを参加者に再発見させるようなアート・パフォーマンスとなりました。



アート・ウォークツアー「情景の扉～上町台地の波打ち際、聖天さんはバラバラに～」実施風景
参加者を先導する詩人の池田昇太郎さん(右) / 場所：聖天山公園付近 Photo: Takuya Matsumi

日本万国博覧会記念基金事業

世 世界各国で助成が活かされています。
過去50年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

<第6回> イタプア国際文化会館（パラグアイ）



イタプア国際文化会館は、パラグアイの首都アスンシオンから約360km、エンカルナシオン市から約40km 地点に位置するラパス移住地にあり、ラパス日本人会が管理・運営している施設です。万博記念基金では、2001年度にイタプア国際文化会館の建設に助成を行いました。

イタプア国際文化会館の管理・運営をしているラパス日本人会・事務局長の吉田秋恵さんに、イタプア国際文化会館についてご紹介いただきました。

助成年度	助成事業名	助成事業者	金額
2001年度	イタプア国際文化会館の建設	ラパス日本人会	2,000万円

イタプア国際文化会館は、2001年度に日本万国博覧会記念協会の補助と地元市役所、各県人会、農協、地元の日系人会員の協力によって建築されました。この素晴らしい施設は、その誕生以来、ラパス移住地の重要な拠点となり、さまざまな活動に利用されています。



外観



落成式

冠婚葬祭の会場として利用される一方で、学校行事やスポーツイベント、国際色豊かな文化イベントにおいてもその存在感を発揮しています。ここでは、ミニ移住資料室や婦人部室、そして700名収容可能なホールなどが整備され、地域社会がさまざまな目的で利用できるようになっています。

特に、青少年のスポーツ



スポーツ施設

練習においては欠かせない場所として、地元の若者たちにとって重要な場となっています。スポーツを通じて友情や協力の精神を培い、地域社会全体の健康促進に寄与しています。

また、各種イベントでは、日系人をはじめとする多様なコミュニティが参加し、お国の文化を披露する貴重な場として活用されています。これにより、異なる文化や伝統が交流し、地域社会がより豊かで多様性に富んだものとなっており、またラパス市役所の重要なイベントにも多く使用されています。

2025年にはラパス移住地が入植70周年を迎えます。この特別な節目において、イタプア国際文化会館を中心にしたさまざまなイベントやプログラムを企画し、周年祭を盛り上げていきたいとの意欲が高まっています。これからも、地域社会との一体感を大切にし、文化の交流と発展を促進していくことが期待されます。



日本の文化などを披露



さまざまなイベントに利用

写真提供 ラパス日本人会

助成先の事業紹介

2023年度助成事業の中から、事業者より寄せられた内容をご紹介します。

木造システムを使用したマイクロ応急住宅建築

事業者：国立林業エクセレンスセンター(チリ) 助成金額：230万円
 実施期間：2023年4月3日～2024年3月29日 実施場所：チリ・カトリック大学 建築・デザイン・都市研究学部

本事業は、災害リスクの削減、災害時の対応や木造の建築方法について日本から学び、その技術をチリおよびラテンアメリカの他の地域に応用できるようにすることを目的に、緊急事態に対応できるミニマムな住宅のプロトタイプ的设计から製作までを行い、その成果物を展示するものです。2023年5月29日から6月2日までの間は、チリの3つの大学(チリ・カトリック大学、サンティアゴ大学、フェデリコサンタマリア工科大学)とアルゼンチンのコルドバカトリック大学の学生を対象に、仙台に拠点を置く非営利団体Alliance for Humanitarian Architecture (AHA)の創設者である日本人建築家の吉川彰布氏を講師に招聘し、日本の建築システムをチリの状況に適應させることを模索するワークショップを開催しました。ワークショップ期間中は学生3～5名と指導教授1名でチームを編成し、テーマに取り組み、ワークショップ最終日には各チームによるプロジェクトのプレゼンテーションを行いました。



ワークショップの様子



ワークショップの様子

第38回宇宙線国際会議

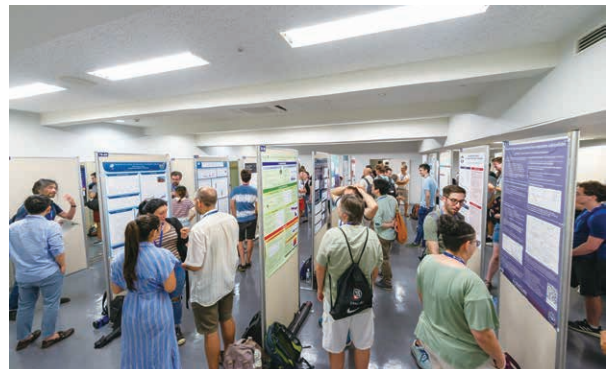
事業者：第38回宇宙線国際会議組織委員会 助成金額：160万円
 実施期間：2023年7月26日～8月3日 実施場所：名古屋大学 豊田講堂、野依記念学術 交流館ほか

第38回宇宙線国際会議は2023年7月26日から8月3日までの9日間、名古屋大学で開催されました。本会議は隔年開催で、前回の第37回はオンライン開催のため、今回は4年ぶりの対面開催となり、44か国から1,099人の現地参加(国内257人、国外842人、その他330名のオンライン参加)を得ることができ(当初見込みは35か国から現地参加600人、オンライン参加600人)、1,500を超える講演が行われました。

近年の宇宙線分野では、今回対象研究分野に加わった「重力波」観測の急速な発展、宇宙ニュートリノ観測の展開、地上ガンマ線観測エネルギーsub TeVからPeVへの拡大と起源天体の数・種類・知見の増大、最高エネルギー領域宇宙線観測の進展、暗黒物質探査の高精度化、これらと多波長天文学を融合したマルチメッセンジャー天文学の展開、と多くの進歩があり、本会議でもこれらの点を中心に活発な研究発表と議論が行われました。

また、7月30日には同会場で一般講演会が開催され、ノーベル物理学賞受賞者の梶田隆章氏による講演が行われました。

万博基金からの助成金のおかげで、現地参加の学生参加費の減額や、発展途上国からの参加者への支援(参加費免除)の拡充が可能となりました。



ポスターセッションの様子



国際会議の様子

第5回東京国際合唱コンクール

事業者：一般社団法人東京国際合唱機構
実施期間：2023年7月27日～30日

助成金額：300万円
実施場所：日本橋公会堂（7月27日）、第一生命ホール（28日～30日）

本事業は4日間の日程で、初日はコンクール出演の4団体によるプレコンサートとして東京国際合唱祭2023（入場者数100名）、2日目以降はコンクール本選で、2日目はシニア・児童合唱（13歳以下）・児童合唱（18歳以下）・学校合唱・フォルクローア各部門（入場者数767名）が、3日目は室内合唱・ユース・同声合唱・混声合唱各部門（入場者数541名）が、最終日は混声合唱・現代合唱各部門およびグランプリコンクール（入場者数746名）が行われました。

大会期間中、国内60団体950名、海外7か国・地域（インドネシア・中国・香港・台湾・フィリピン・韓国・デンマーク）18団体650名の合計78団体1,600名が、海外から招聘した国際審査員による世界水準の審査のもと、白熱の演奏を披露しました。各団体の演奏後および表彰式は、拍手や賞賛の音が鳴りやまず、国を超えてお互いを讃えました。

グランプリは児童合唱部門（13歳以下）に出場したインドネシアの合唱団が受賞しました。インドネシアのメディアおよびフィリピンの外務省ホームページにて合唱団の活躍および当コンクールのことが広く報道されました。

万博基金による助成で、諸物価高騰に伴う国際審査員渡航宿泊費やパンフレット・リーフレット印刷費の増額分を賄うことができました。



合唱コンクールの様子



受賞者の様子

フィンランドと静岡をつなぐSDGsプロジェクト

IT技術を駆使した気候変動とそれに伴う自然災害へのリスクマネジメントに向けて

事業者：静岡大学国際連携推進機構
実施期間：2023年8月7日～9日、21日～26日

助成金額：112万円
実施場所：静岡大学静岡キャンパス、静岡市産学交流センターほか

本事業は、「静岡×減災×ICT」を主題とする、9日間にわたる英語によるSDGsサマープログラムです。3日間のオンライン事前研修の後、静岡市内を主な会場として、座学、グループワーク、フィールドワークを織り交ぜたPBL型（Project Based Learning：問題解決型学習）の教育プログラムを提供しました。その結果、静岡大学の学生、フィンランド・オウル大学の学生、留学生、地元の高校生などを中心に55名の参加者を得て、活発な意見交換・情報発信・国際交流がなされました。

本事業は日本万国博覧会記念基金の助成をはじめ、静岡県、静岡市、フィンランド大使館からの後援、さらには建設システム、静新SBSグループ、清水建設、ノキア・ジャパン、仙台市からの事業参画・協力をいただいたことで、産学官が連携した画期的な国際連携プログラムとして実を結ぶことができました。これらは日本万国博覧会記念基金による助成事業であるという信頼基盤の上に成立したものであり、実施にあたり公益財団法人関西・大阪21世紀協会の方々からも関連事業の紹介や助言の数々をいただきました。本事業の成果をもとに今後も引き続き静岡から国際交流の機運を醸成し、新たな取組を発信していきたいと考えています。



サマープログラムの参加者



サマープログラムの様子

陸前高田アーティスト・イン・レジデンスプログラム2023 ～アートとてらす 持続可能な地域の未来～

事業者：陸前高田AIR実行委員会
実施期間：2023年9月18日～11月18日

助成金額：170万円
実施場所：岩手県陸前高田市

このプログラムは、震災復興の先を見据えた持続可能なまちづくりに取り組む陸前高田市において、アーティストと地域住民が未来志向のエネルギーを交感しあう場づくりを行うことを目的として実施しています。2023年は、タイ、フィリピン、ラトビアから3名のアーティストを招聘し、約1か月の滞在期間中に創作活動と地域との交流をしていただきました。今回、初の試みとして、地元の高田第一中学校の全校生徒（188名）を対象に、各学年に1人ずつアーティストがつき創作ワークショップを行いました。2学年は、生徒1人ずつが地元の松や愛宕山をモチーフにしたキャラクターを紙に描き、切り抜いたキャラクターと、切り抜かれた紙をつかって全体でアートをつくる試みを行い、それぞれが想像力を膨らませながら取り組んでくれました。滞在期間の終盤には、市内横田地区にある小学校の旧校舎を利用して各アーティストの創作物を公開するオープンスタジオを開催しました。ワークショップに参加した中学生の来場もあり、小規模ながら良い交流の場となりました。

東日本大震災やコロナ禍を乗り越え、地域の未来を切り開いていこうとするタイミングで、万博記念基金に採択いただいたことで、大変充実したプログラムが実施できました。



オープンスタジオの様子



フィリピンアーティストが陸前高田を舞台に制作中の映画

アフリカマンガ展 – Comics in Francophone Africa –

事業者：京都精華大学（京都国際マンガミュージアム）
実施期間：2023年10月26日～2024年2月18日

助成金額：220万円
実施場所：京都国際マンガミュージアム

本事業は、アフリカのマンガに注目する日本初の「アフリカマンガ」の展覧会です。日本ではまだあまり知られていないアフリカのマンガ文化と市場を理解するための初めの一歩として企画された本展覧会は、アフリカのなかでも、ヨーロッパで最大のマンガ市場を持つフランスの影響を大きく受けた、フランス語圏アフリカ諸国のマンガに注目したものです。本展はフランス語圏アフリカの紹介から始まり、15名のアフリカ人作家による作品や現地でのイベントの様子が展示されたほか、アフリカにおけるマンガの歴史や日本のマンガの影響、現地の出版状況などについても触れられました。「アフリカマンガ」という題材の珍しさゆえに、国内外から多くの方が展示会場に足を運び、盛況となりました。

展覧会の関連イベントとして、アフリカ出身のマンガ家を招いたシンポジウムやトークショー、アフリカの伝統文化を体験するワークショップが行われ、マンガ文化にとどまらず、アフリカの文化に対する理解を深められる機会を作ることができました。助成事業として採択されたおかげで、大規模での開催が可能になり、より充実した企画になりました。



トークショーの様子



(撮影：衣笠名津美)

展示の様子

若手アーティストが育つ魅力ある大阪に

大阪中之島美術館×関西・大阪21世紀協会 共同企画

Osaka Directory

supported by RICHARD MILLE

おおさかディレクトリ



小谷 くるみ 展

第4期 2023年11月18日～12月17日

虚実が交錯するミステリアスな世界



存在の痕跡や気配をコンセプトとする「21g(グラム)」シリーズなど、今回のための新作8点を含む絵画作品10点が披露されました。

「21g」シリーズの《見えない山》や《対岸》は、結露した窓ガラス越しにおぼろげに見える風景と、結露面を指でなぞった落書きのようなストロークを写実的に表現した絵画作品です。シリーズ制作のきっかけは、大学院時代に本で読んだ「人の体重は死の瞬間に魂の重さである21g分減る」という説と、霊的な存在が湿った窓にメッセージを残すホラー映画のワンシーンが自身の中で結びついたことでした。「魂は目に見えず、あるかないかも分からないのに、人々はまるでそれが存在するかのように生活している。スピリチュアルなものに名前を付けたり、重さを測ったりして、その存在に意味を付けようとする人の欲のようなものが面白い」という小谷さん。作品が全体に青っぽいのは、映画『仄暗い水の底から』(2002年/日本)を観て、その映像が青いフィルターをかけて不気味さを演出していることから着想したものです。目に見えない恐怖をジメジメとした湿気で暗示する日本のホラー映画特有の心理描写が好きで、小谷さんが描く“結露”からも、そう

した何ものかの“気配”が伝わってきます。

《ただここに在る》は、鉄の錆を“絵の具”としてキャンバスに染み込ませ、時間の変化や事物の痕跡を象徴的に表現する「時間・痕跡〈錆〉シリーズ」の一つ。映画『Stalker(ストーカー)』(1979年/ソ連)のワンシーンを描いたもので、“ゾーン”と呼ばれる願いが叶う場所へなかなか辿り着けない登場人物の苛立ちが、作品のテーマを追いかけていた自身の焦燥感と重なって制作につながりました。

自身初の美術館での個展について、「私のことを全く知らない人や現代美術となじみのない人にも観ていただけるし、こうしたテーマを面白いと感じてもらえれば嬉しい」と小谷さん。虚構と現実が交錯する小谷さんのミステリアスな世界観に、多くの人が足を止めて見入っていました。



《ただここに在る》2020年
鉄錆(赤錆、黒錆)、綿布、パネル/162×130cm



《見えない山》2023年
アクリル、綿布、パネル/230×420cm

久しぶりに訪れた故郷(大阪府交野市)の風景。巨石信仰のある山の風景が高速道路によって隠れてしまったが、そこに聖なる存在の気配を感じて制作。大きなキャンバスに写真を投影して描き、ストローク部分をマスキング(最後に除去)した後、スプレーで結露感を表現している。



《対岸》2023年
アクリル、綿布、パネル/116.7×91.0cm

関西・大阪21世紀協会は、関西の若いアーティストの活動を支援するため、大阪中之島美術館と協力し、多くの美術愛好家が訪れる美術館のフリースペースでアーティストの作品を個展形式で紹介する「Osaka Directory supported by RICHARD MILLE」を開催しています。2年目となる2023年度（第4～6期）は、20代の実力ある3名のアーティストを取り上げました。2万7千人を超える来館者が鑑賞し、彼らの現代を象徴する新たな表現が注目されました。

当協会はこの取り組みを通して、国内外から「アーティストが育つ、活気と魅力のある都市」として認知され、地域の賑わいに貢献することを目指しています。

肥後 亮祐 展

第5期 2023年12月23日～2024年1月21日

ブロンドの記譜法



社会や個人が無自覚または意図的に作りだす虚構とその伝播を考察・作品化している肥後さん。本展覧会では、美術館などに設置される「毛髪式温湿度計^{*}」を起点に、湿度を数値化する装置に人体の一部である毛髪が介在することで、自身が抱いていた無機質な計測器の基準が乱される感覚をコンセプトとする作品が展示されました。

「毛髪式温湿度計はモノに過ぎないが、人々はそれが示す数値に動かされているといえるのではないか。言い換えれば、温湿度計に使われたブロンドヘアという奇妙な基準によって議論が発生し、行動が促されているように思えた」という肥後さん。会場では、毛髪式温湿度計やスイス人科学者のオラス＝ベネディクト・ド・ソシュール(1740～1799年)による毛髪式温湿度計の起源ともいえる論文「湿度測定法に関する試論」の初版本(1783年)、ソシュールと毛髪式温湿度計が描かれた「20スイス・フラン」、ソシュールがモン・ビュエ山頂でスケッチしたアルプスの山並みをもとに、作家のマルク＝テオドール・ブーリ(1739～1819年)に描かせた360度パノラマ図、グーグルアースをもとに制作した映像作品《モン・ビュエ》などを展示。さらに、5名の話者

肥後亮祐／1995年北海道生まれ。京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程構想設計領域在学。「Kyoto Art for Tomorrow 2021-京都府新鋭選抜展-優秀賞」(京都文化博物館、京都／2021年)など受賞。

が毛髪式温湿度計をきっかけに語り合った様子を、円卓や話者たちが座っていた椅子の高さ、それを撮影したカメラ位置などを再現して“座標”とみなし、“見えないものの状態を探る装置”として提示したインスタレーション作品《ブーリは道を知っている》が新たに制作されました。

毛髪式温湿度計は、歯車が作動するたびに「カチッ」という音がします。肥後さんは、それが音楽のテンポのように聞こえ、湿度を示すグラフが譜面のように見えたことから、作品全体のテーマを《ブロンドの記譜法》と名付けました。毛髪式温湿度計をめぐる品々や作品はそのテーマの素材であり、展示品すべてをもって1つの「作品」とみなす構成になっています。

^{*}毛髪式温湿度計……毛髪が吸湿と脱湿により伸縮する性質を利用した温湿度計。メーカーによっては、フランス少数民族の女性の毛髪が使用されているものもある。



毛髪式温湿度計(シグマII型 温湿度記録計)



会場は、本展の起点となった毛髪式温湿度計(左奥)から順に、ブーリが描いたパノラマ図や、ソシュールの論文、新作《モン・ビュエ》が並ぶ。



《ブーリは道を知っている》2023年

木原 結花 展

第6期 2024年1月27日～2月25日

木原結花／1995年大阪府生まれ。2019年大阪芸術大学大学院芸術研究科博士課程前期修了。大阪芸術大学写真学科平成28年度卒業制作展学長賞（2017年）。関西、関東の展覧会に多数出展。

社会の周縁に消えた人たちを仮構



氏名や戸籍などが判明しない身元不明の遺体は「行旅死亡人」といわれ、その容姿や所持品などの情報は官報や新聞で公告されています。木原結花さんは、そのわずかな文字情報をもとに生前の姿をフォトモンタージュで作成し、遺体が発見された場所の風景と合わせて、あたかもそこで撮影されたようなポートレート写真を制作しています。

制作のきっかけは、大学の授業で行旅死亡人について知った際、小学生の頃、夏休みにホームレスの男性と親しくなったもの、夏休みが終わってその人と遊ぶことができなくなり、やがて顔も忘れてしまっていた自身の経験を思い出したことでした。

本展覧会では、遺体が発見された現場の太陽光

で感光し、そこで水洗現像して乾燥させた「サイアノタイプ（ネガフィルムに感光材を塗った画用紙を重ね、紫外線で感光させる青写真）」による等身大の作品も出展されました。木原さんは、「彼らが薄れゆく意識の中で感じたであろう太陽の光や風の感触なども記録できないかと考えた。そうした物理的な刺激も、彼らの人生を構成する要素だったから。社会の周縁に消えた名前も顔も分からない人たちを捉えるには、こうして仮構するしかない」といいます。

新作《そこにはいるはずだったあなたの。世界にはない現象でああなたの形を作成する》は、あるアニメの聖地（海辺）に赴き、その場でシリコン型に「UVレジン（紫外線硬化樹脂）」を流し込んで固めた作品。アニメと現実世界が違うことは承知の上で、キャラクターたちも自分と同じ日焼けの痛みを感じたかもしれないと信じるしかない祈りの行為だったと振り返り、「大阪中之島美術館という大きな舞台での個展の開催はとてつもない挑戦で、鑑賞に耐えられる作品が創れるのか自身との葛藤の日々だったが、制作を進めるにつれ、次はこうしたい、ああしたいという思いが湧き上がってきた」と笑顔で語ってくれました。



《行旅死亡人（兵庫県姫路市飾磨新西防波堤灯台付近）》2017年
サイアノタイプ／180×50cm



《行旅死亡人》2016年
新聞の切り抜き、写真／各22×27.3cm、
10点組のうちの2点



《そこにはいるはずだったあなたの。世界にはない現象でああなたの形を作成する》2023年
紫外線硬化樹脂（UVレジン）・シリコン、インスタレーションサイズ可変

主催：大阪中之島美術館、関西・大阪21世紀協会

supported by RICHARD MILLE

協賛：サントリーホールディングス株式会社、ロート製薬株式会社、大和証券株式会社、西日本電信電話株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社丹青社

※Directory（ディレクトリ）は、英語で「名鑑」、IT用語でデータを整理・分類する「フォルダ」を意味する言葉。本シリーズを通して、将来活躍が期待される関西の若手アーティストの情報を美術館というディレクトリに格納・保管するとともに、彼らの活動を広く紹介し、世界に羽ばたくことを支援する。第1期～第3期は2022年8月～2023年2月に開催。

開催レポート

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発信と発掘」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。この趣旨に基づき、各団体開催の催しなどの協力や後援も行っています。

日本万国博覧会記念公園シンポジウム2023 (2023年10月28日 / 国立民族学博物館)

- ◆ 主催：公益財団法人 千里文化財団 ◆ 共催：大阪府、国立民族学博物館
- ◆ 協力：公益財団法人 関西・大阪21世紀協会、国立大学法人 大阪大学、公益財団法人 大阪日本民芸館、大阪モノレール株式会社、万博記念公園マネジメント・パートナーズ
- ◆ 後援：公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会、吹田市、NHK大阪放送局

「日本人」の内と外―異文化接触を語り合う

異文化接触をキーワードに、4名の研究者が当時の日本人が異文化を受容した1970年大阪万博の直接的、間接的な影響について検証し、さまざまな視点から活発な議論が繰り広げられました。ステレオタイプの観念をなくす機会や、多様性を尊重する場として、万博のもつ重要な意義を再認識するシンポジウムとなりました。本シンポジウムは1970年大阪万博のレガシーである国立民族学博物館と万博記念公園(大阪府)が協働し、2025年大阪・関西万博の開催年まで毎年開催を予定しています。



パネルディスカッション風景

今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」 (2024年1月10日 道頓堀～今宮戎神社)

- ◆ 主催：十日戎宝恵駕振興会 ◆ 協賛：今宮戎神社、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

新春のミナミに4年ぶりの賑わい

今宮戎神社「十日戎」の奉納行事として、大阪府無形民俗文化財に指定されている宝恵駕行列が4年ぶりに行われました。江戸時代にはじまった宝恵駕行列は、明治中頃からは花街の集客や商売繁盛を祈願して行われ、最盛期には100挺もの駕が華麗をきそい賑わいを見せました。現在は、地元商店会や経済界などの協力により、その伝統が受け継がれています。

大阪ミナミの道頓堀「とんぼりリバーウォーク」で出発式の後、芸妓を代表して佳世子さん、落語家の桂文枝さん、日本舞踊山村流の山村友五郎さん、俳優の藤山扇治郎さん、OSK日本歌劇団の楊琳さんらが駕に乗り、「ほえかご、

ほえかご」の掛け声とともに400人を超える大行列が今宮戎神社までの道のりを練り歩きました。



芸妓の佳世子さんを乗せてミナミの商店街に練り出す宝恵駕

第21回堂島薬師堂節分お水汲み祭り (2024年2月2日 / 堂島薬師堂・大阪市北区)

- ◆ 主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

北新地で無病息災・商売繁盛を祈願

「堂島薬師堂節分お水汲み祭り」は、堂島で古くから伝わる「節分祭」と、奈良・薬師寺と大阪天満宮から汲み上げたお香水を竹筒護符に注いで無病息災、商売繁盛などを祈願する「お水汲み」を合わせたお祭りです。堂島・北新地で催される2月の風物詩です。21回目となる今年は、堂島薬師堂での節分法要の後、お水汲みや護摩焚き、北新地芸妓衆による「奉納舞」と続き、夜には北新地クイーンや北新地の女性が仮装する「お化け」を従えて町中を練り歩く「白龍の巡行」が華やかに行われました。



北新地の繁華街を練り歩く「白龍の巡行」

2023年 関西元気文化圏賞 贈呈式 (2024年1月30日/リーガロイヤルホテル大阪)

◆主催：関西元気文化圏推進協議会

阪神タイガース/岡田彰布監督に大賞を贈呈

「関西元気文化圏賞」は文化を通じて関西から日本を明るく元気にすることに貢献した人や団体に対して贈られる賞で、今年度で21回目を迎えます。

今年度の大賞は、18年ぶりのセ・リーグ優勝、38年ぶりの日本一に輝いたプロ野球・阪神タイガース/岡田彰布監督。特別賞は、NHK連続テレビ小説「ブギウギ」に出演の翼和希さんが所属するOSK日本歌劇団のほか、中央官庁の地方移転のトップを切って2023年3月に京都に移転した文化庁が選ばれました。贈呈式では人形浄瑠璃文楽の豊竹呂太夫さんによる記念講演も行われ盛況となりました。各賞の受賞者は次の通り。

大賞：阪神タイガース/岡田彰布監督、特別賞：OSK日本

歌劇団、文化庁、ニューパワー賞：村上頌樹(プロ野球選手)、藤波朱理(レスリング選手)、前田妃奈(ヴァイオリニスト)、吉田一輔(人形浄瑠璃文楽座人形遣い)(敬称略)



受賞者と主催者



HEART & ART



こちらから簡単に
寄付ができます



アーツサポート関西の芸術・文化支援

HEART & ARTは、アーツサポート関西が進める芸術・文化支援のためのご寄付を集める取り組みです。お寄せいただいたご寄付は、アーティストや文化団体支援に充てられます。みなさまからのご寄付をお待ちしています。寄付には税の優遇措置が適用されます。

HEART & ARTは公益財団法人関西・大阪21世紀協会が行うアーツサポート関西の取り組みとして行われています。



詳しくはアーツサポート関西ホームページへ ▶ <https://artssupport-kansai.or.jp/>

スマホを使って文化芸術支援にご協力を!

「スマホ」でかんたん
少額からできる

ぽちっ と募金

あなたの想いを
「ぽちっ」と届けよう



2021年3月30日より、株式会社みずほ銀行が提供し、全国90以上の金融機関が参画するスマホ送金・決済アプリ「J-Coin Pay」内で実施している「ぽちっと募金」から、関西・大阪21世紀協会にご寄付いただくことが可能となりました。

当協会は、コロナ禍で経済的な事情を抱える若手アーティストへの支援や活動の場の提供を通じて個と個を結びつけ、さらには個と企業を繋ぎ合わせる取り組みを行っています。こうした取り組みにご賛同いただける方は、「ぽちっと募金」で500円からお気持ちの金額を当協会に寄付していただくことができます。ご寄付は、アーティストへの支援を拡充するための費用として活用させていただきます。

皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

詳しくは関西・大阪21世紀協会ホームページへ
<https://www.osaka21.or.jp>

「ぽちっと募金」とは

J-Coin Pay(店頭での支払い、送金、入出金をスマホで行えるアプリ)を利用して、復興支援や国際協力、医療・福祉、文化・芸術、スポーツ振興などの支援を行う団体に対し、少額から募金できるサービスです。(J-Coin Payについては ▶ <https://j-coin.jp/>)

関西・大阪21世紀協会賛助会員
入会のお祝い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

- 法人会員 1口につき年会費10万円
- 個人会員 1口につき年会費 1万円

特典

1. 協会が発行する刊物の配布
2. 協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3. 賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 総務部(TEL.06-7507-2001)